第３学年　道徳学習指導案

指導者　○○○○

１　主題名　　　約束やきまりを守ろう（C－１　規則の尊重）

２　資料名　　　『夢中になって』

（出典：「どうとく　明るい心」愛知県教育振興会　改作）

３　主題設定の理由

　（１）ねらいとする価値について

本時では、C「主として集団や社会との関わりに関すること」のうち、「規則の尊重」について扱う。第３学年及び第４学年の内容項目は「約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。」となっており、約束や社会のきまりについて理解した上で、社会生活の中で守るべき道徳としての公徳を大切にする態度の育成を目指すものである。

児童が成長することは、同時に社会や集団の様々な規範を身に付けていくことでもある。まず、約束やきまりを守ることができるように指導することが必要である。その過程で公徳心を養い、さらに、社会の法やきまりのもつ意義について考えるとともにそれを遵守し、自他の権利を尊重するとともに義務を大切にする精神をしっかりと身に付けるように指導する必要がある。規範意識を育てるためには重要な内容項目であるといえる。

中学年の段階においては、気の合う仲間の間できまりをつくり、自分たちで決めたことを大切にする傾向がある。そのような発達段階の特質を生かし、一般的な約束や社会のきまりについて理解し、それらを守るように指導していくことが大切である。さらに、公共物や公共の場所とのかかわりにおいても、みんなで使うものを大切にすることにとどまらず、社会生活の中で守るべき道徳としての公徳を大切にする態度にまで広げていく必要がある。

　（２）児童の実態について

本学級の児童は、少人数ということもあり、一般的な人数の学級の児童と比べ、一人一人のかかわり合う機会が多いため、大変仲がよい。短い休み時間には、全員で遊んでいる姿がよく見られる。そのときの遊びのルールは自分たちで決めたオリジナルなものも入れて工夫しており、だいたいそれらを守って仲良く遊べている。一方で、体育の時間や勝負事になると周りが見えなくなってしまい、最後まで話を聞くことや順番に並ぶという約束やきまりを守れず体が先に動いてしまうことがある。また、A児は、勝ちたい気持ちから夢中になり、決めてあるルールを自分にとって都合のいいように解釈したり、勝手にルールを新しく作ったりし、友達に主張するのでよい雰囲気で遊ぶことができないことがある。このような児童に本時を通して、社会のきまりの意義を考えさせることで、それらを守る道徳的判断力を身に付けさせたい。

（３）資料について

　　本資料は、安易な気持ちできまりを破ったけんじたちの行動が、周りの人を不快な気持ちにさせ、迷惑をかけてしまったという話である。児童にとって身近な校外学習でのできごとを取り上げ、友達に注意されながらも夢中になってしまいきまりを守れないけんじの気持ちを考える中で、ねらいに迫ることができる資料である。

　　この時期の児童はきまりを守らなければいけないことは理解している。しかし、きまりを破ることで周囲にどのような迷惑がかかるかといったことに考えが及びにくい。このような児童にとって、本資料は考えやすい内容であると思われる。なお、基となっている資料では題名が「校外学習」だったが、けんじの気持ちにより迫ることができることを意図して「夢中になって」という題名に改題した。そして、夢中になって約束やきまりを守れないけんじの様子を強調するため、はやる気持ちに負け、きまりを守れないけんじの様子が取り上げられている箇所を改作した。また、役割演技をしやすくすることを意図し、登場人物の名前を変えた。具体的には、役割演技に教師が加わるため、主人公と一緒にきまりを守れなかった登場人物を男性名に変え、学級の児童に似た名前の子の名前を別の名前に変えた。

特に、注意されながらもコンピュータから離れられなかったけんじの気持ちを話し合うことで、きまりの意味や必要性について考えさせ、ねらいとする価値に迫りたい。

４　指導に当たって

　（１）指導方法の工夫

　　導入では、児童に「夢中になること」について想起させることによって、展開前段での「夢中になること」がいけないことなのかを考える際の助けとしたい。

　　展開全体を通して、資料の範読の際に場面絵を掲示しながら読み進めることで、子どもたちの理解を助けたい。その際、読み聞かせながら場面絵を黒板に貼っていくことで、物語の展開を視覚的に理解させたい。

展開前段では、物語の範読を一旦止めることで、物語の結末を意識しない発言をさせたい。さらに、けんじ、まい（きまりを優先する子）、のりお（夢中になっていることを優先する子）で役割演技を行いたい。視覚的・体験的に支援することにより、コンピュータの前で夢中になるけんじの気持ちに焦点を当てて発言をさせたい。また、まいの「もうそろそろ行こうよ」の発言の前に、周囲に迷惑を掛けている文章があるが、夢中になっているけんじの気持ちを素直に出させるために、資料から取り除いた。その後、中心発問の場面では、物語の結末を範読し、公共の場で、夢中になってしまうことがあっても他人に迷惑にならないよう、約束やきまりを守った方が好ましいことを改めて気付かせたい。

展開後段では、夢中になっているときに約束やきまりが守れているのか振り返らせたい。その際、夢中になっている上に、きまりや約束を守らなければいけない状況を想起することが難しいことが考えられる。そこで、身近な学校生活には約束やきまりがあることを確認して、きまりや約束の中で、自分の行動がどうだったのか、具体的に考えさせたい。

　（２）他の教育活動との関連

　　９月２８日の消防署見学や１０月１日に控えた社会見学の際には、本時の授業を想起させ、公共の場でのきまりや約束を守れるよう指導していきたい。活動後には、振り返る場を設け、児童ができたことを肯定的に捉えられることで望ましい道徳的な行為や習慣につなげていきたい。

５　本時の指導

（１）　ねらい

　　　けんじの気持ちについて考えたり話し合ったりすることを通して、公共の場でのきまりや約束を守る意義について道徳的判断力を養う。

（２）　準備

　　教師：場面絵、登場人物の名札、コンピュータ、ワークシート

（３）展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時間 | 段階 | 学習活動　　　・予想される子どもの反応 | ◇教師の支援　　◎評価 |
| ５ | 導入 | １　夢中になることについて想起させる。夢中になってしたことはありますか。・野球　・ゲーム　・読書　・漢字博士テスト | ◇夢中になった経験を想起させ、けんじの気持ちに共感できるようにする。 |
| ２５ | 展開前段 | ２　資料「夢中になって」の前半を聞いて、話し合う。コンピュータに向かう、けんじはどんな気持ちだったかな。・早くゲームがしたい。　・どんなクイズかな。・急がないと取られちゃう。まいに「もうそろそろ行こうよ」と言われたけんじは、どんな気持ちだったでしょう。・待って、もう少し。・まいちゃんもやろうよ。・言ってることはわかるけど、もうちょっと。３　資料「夢中になって」の後半を聞いて、話し合う。並んでいる人たちの顔を思い出しながら、けんじはどんなことを考えたでしょう。・どうしよう。・だって、しょうがないよ。・みんな、怒っちゃった。・やっぱり、きまりを守らないといけなかったな。・夢中になってやらなければよかった。・周りの人に迷惑かけちゃったな。・これからは、きまりを守らないといけないな。夢中になることっていけないことなのかな。・いいことだけど、分からなくなってきた。・いいこと。だけど、けんじみたいなのは、駄目。・夢中なのはいいけど、きまりを守らないといけない。 | ◇中心発問でのけんじの気持ちを深く考えるために、基本発問を通して、夢中になっていくけんじの気持ちに共感させる。◇資料の範読を途中でやめ、役割演技を通して、けんじの夢中になっている気持ちに気付かせる。◎けんじの気持ちに寄り添い、自分なりに気持ちを考えることができる。（発言）◇机間巡視をして、○を付けることで自信を持って発言できるようにする。◎けんじの後悔している様子に触れ、約束やきまりを守ることの大切さに気付くことができる。（ワークシート・発言）◇導入で発言されたことをもう一度返すことで、夢中になることと約束やきまりについて改めて考えさせる。 |
| １０ | 展開後段 | ４　学校生活を思い出し、自分を振り返る。けんじのように、夢中になってきまりを守れなかったことはありますか。・夢中になってて、廊下を走っちゃった。・夢中になって遊んでたけど、５分前行動できたよ。・騒いでいて、怒られちゃった。他の学年に迷惑かけてよくなかった。 | ◎身近な学校でのきまりを想起させ、道徳的に好ましい行動を判断し、振り返ることができる。（ワークシート・発言） |
| ５ | 終末 | ５　教師の説話を聞く。 | ◇夢中になり、きまり守れなかった説話をし、道徳的な判断をしていこうという意識を高める。 |

（４）評価

　夢中になっているけんじの気持ちを話し合うことを通して、約束やきまりを守る意義を判断する力を養うことができたか。